



広報

いづぼうと球磨

No. 98

令和5年11月



もくじ

新救急車配備	2
救急出動件数過去最多	3
消毒用アルコールを貯蔵 又は取扱う場合の注意点	3
旧多良木中学校校舎を利用した訓練	4
熊本県防災消防航空隊と合同訓練	5
熊本県警察と合同潜水訓練	5
新人紹介	6
秋の火災予防運動週間	6
消防めし	6

火災・救急・救助は119番

新救急車が配備されました



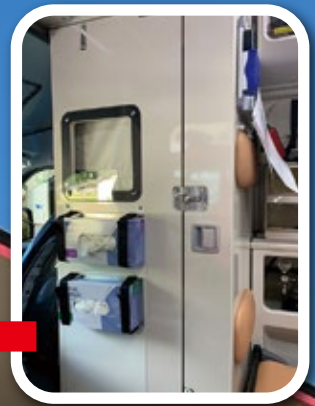
①除細動器



②自動心臓マッサージ器



③感染症対策



このたび、緊急消防援助隊（大規模災害時の県内外応援）登録車両の機能強化更新として東分署に配備しました。

主な装備資機材として、

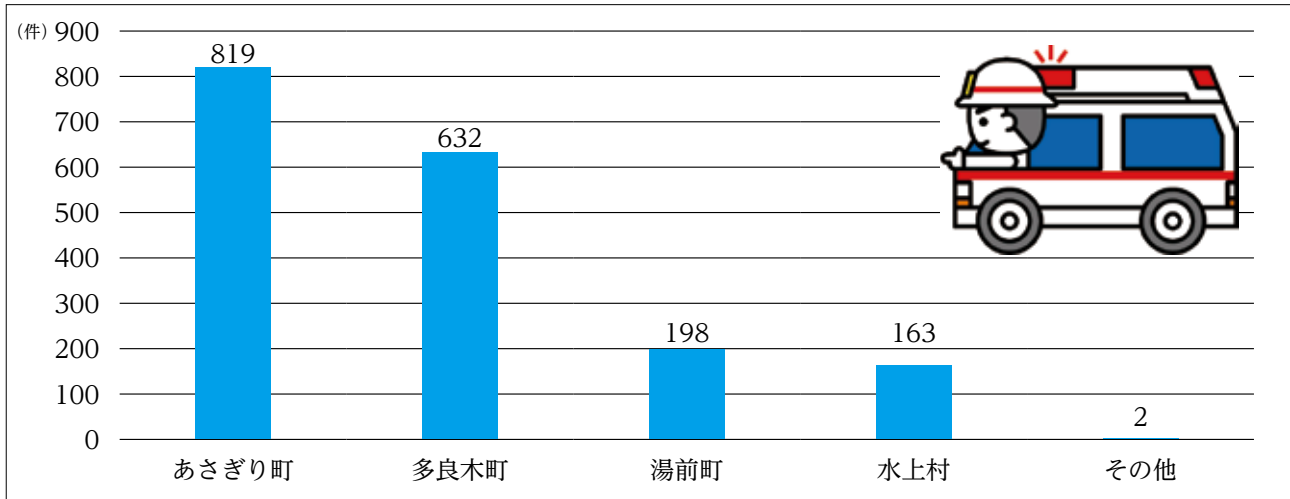
①除細動器（心肺停止の傷病者に対して電気ショックを行う。また、12誘導心電図を解析することも可能）
②自動心臓マッサージ器（心臓が停止した傷病者に効果的な心臓マッサージが可能。また、心臓マッサージ担当者は、他の処置を行うことができる。）
③感染症対策装備（運転席と後部席の間に仕切り扉の設置）を追加しました。

昨年は、全国の救急出動件数が過去最多の約722万件（前年比16.7%増）を記録。上球磨消防組合でも発足以来最多の1,814件（前年比17.1%増）を記録しました。

今後増加が予測される救急出動、高度な救急処置も求められるなかで、さらなる地域貢献が期待されます。

救急出動件数過去最多

令和4年中の救急出動件数は、1,814件（前年比 265件増）で上球磨消防組合発足以来最多の出動件数となりました。各町村別の出動件数は、グラフのとおりです。



増加した要因として、新型コロナウイルス感染症（以下、「新型コロナ」）の搬送や軽症（入院を必要としないもの）搬送の増加などがあります。今後は新型コロナでの搬送は少なくなるとは考えられますが、軽症の搬送件数は増加傾向にあります。

軽症のすべてが救急車を必要としない救急搬送とは限りませんが、救急車は限りある資源です。適正な利用をお願いします。

消毒用アルコールを貯蔵又は取扱う場合の注意点

令和5年5月8日から新型コロナが季節性インフルエンザと同じ「5類感染症」に引き下げられました。

今後も、ご家庭や事業所等で消毒用アルコールを使用される場合、火災の危険がありますので以下に示す注意事項を確認の上、安全に取扱ってください。

※アルコール濃度60%以上の消毒用アルコールは「危険物」になり、80L以上貯蔵又は取扱う場合は、届出または申請が必要になります。

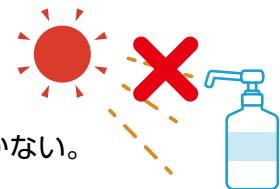
注意事項①

燃えやすいため、
コンロ等、
火の近くでは使用しない。



注意事項③

直射日光が当たる
場所や
高温になる場所に置かない。



注意事項②

アルコールが
乾いていない手で、
タバコを吸わない。



危険物に関する問い合わせは



上球磨消防組合消防本部 予防課
TEL (0966) 42-3184
mail: yobou@kmmk119.jp

旧多良木中学校校舎を利用した訓練を実施

令和5年8月23日、多良木町の旧多良木中学校校舎を借用し、訓練を実施しました。午前中には大規模建物火災の想定訓練。午後からは三連はしごの取扱いとロープによる降下・登はんの基礎訓練を実施しました。

今回の訓練目的は①消防署内の施設とは異なる場所での訓練を経験すること、②大規模火災を想定した各中隊間の連携訓練を実施すること、以上の2点に定めて訓練を計画しました。

消防署内の施設とは異なる場所で目的のとおり、緊張感を伴った非常に実りのある訓練となりました。

当消防本部において出動隊がすべて集結しての訓練は過去にあまり例がありませんでしたので、今後も同様の訓練を継続していく必要性を感じました。



建物進入後、放水準備をする隊員



傷病者を発見し、救出準備をする隊員



専用の資器材を使用し、壁を登る隊員



三連はしごを使用し、屋内へ進入する隊員

熊本県防災消防航空隊と合同訓練を実施



担架を使用して救出を行う隊員



ヘリでホイスト（引揚げ）救出を行う隊員

令和5年9月13日、熊本県防災消防航空隊（防災ヘリ【ひばり】）と合同訓練を水上村球磨川源流域の山中で行いました。

「球磨川源流域付近の山中で行方不明者が見つかり、怪我をして動けない。」という想定で行われ、山中で救助活動をする地上部隊と連携し、防災ヘリのホイスト（救助用ウインチ）を使用した救助隊員の投入訓練、要救助者の引揚救助を実施しました。

実際の災害に近い訓練となり、とても良い経験ができました。これからも各種災害への対応力の強化、関係機関との連携強化を図り、訓練を重ね、災害に備えます。

熊本県警察と合同潜水訓練を実施



基礎訓練を行う隊員



水深5メートル地点での活動

令和5年9月25日、26日に熊本市中央区にある熊本県警察本部の潜水施設にて、合同潜水訓練を行いました。

この施設のプールは水深が5メートルあり、当消防本部管内ではできない内容の訓練を行うことができます。熊本県警察機動隊の潜水隊員の方々に、マンツーマンで指導をしていただき、潜水技術の向上を図りました。

今回初めて訓練に参加した中礼大志消防士は、「水深5メートルの水圧下での潜水作業は、技術的にも精神的にも高度なものが求められることが分かりました。実際の現場では視界も悪くなり、さらに活動が困難になる可能性があるため、今後も継続して訓練を行っていききたいです。」とさらに気が引き締まった面持ちでした。



新人紹介



もりやま りん
森山 凜 (19歳)
(多良木町)

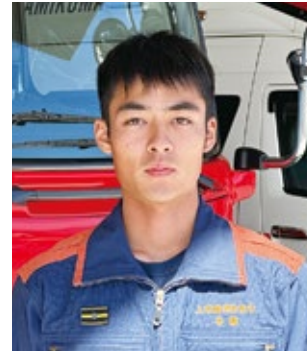
私は小学生の頃から消防士になるという夢を持ち、今まで消防士を目指してきました。

まだまだ未熟で不安な所もありますが、今後は地域の方を安心させることができるような消防士を目指して頑張ります。



たにぐち そうた
谷口 宗大 (20歳)
(あさぎり町)

私は令和2年熊本豪雨の際にボランティア活動に参加し、そこで消防職員の方が活動されている所を目にしました。この時に消防士を目指すようになりました。いつ、いかなる事態にも対応できるよう日頃の準備と訓練を重ねていきます。



たにわき そら
谷脇 青空 (21歳)
(多良木町)

私は幼い頃から消防が好きで、気付けば消防士を目指していました。そして高校の時の職場体験で人を助けるやりがいを知り、消防一本で勉強をしてきました。今後は住民の方から信頼される消防士になります。



消防めし!



唐揚げ

今回の担当は、採用5年目の森消防士。現在、第1中隊第2小隊員(予防係)として日々、訓練や現場活動に一生懸命取り組んでいます。

秋の火災予防運動週間

令和5年11月9日(木)から1週間が秋の全国火災予防運動週間です。

上球磨消防署では店舗でのポケットティッシュ配布、消防車両での巡回広報、各町村の防災行政無線告知放送を使用した広報を実施しました。



この期間は、空気が乾燥し、火災が起こりやすい気象状況といわれています。今後も、このような気象状況が続くと予想されますので、火の取り扱いに十分注意されますようお願いします。

防火標語(2023年度 全国統一防火標語)

「火を消して 不安を消して つなぐ未来」